

1 基礎指標

1-1 位置、アクセス

【位置、アクセスに関する小金井市の特性】

小金井市は、東京都のほぼ中央で武蔵野台地の南西部に位置しており、主要都市までのアクセスが便利な都市近郊型のコンパクトなまちです。

図表 1 小金井市全域図



- 面積 11.33 km²
- 標高 40m (東町)、75m (貫井北町)
- 小金井市は、東京都のほぼ中央、東京駅から西へ約 25km の距離に位置しています。昭和 33 年 10 月 1 日に市制を施行し、東京都で 10 番目の市になりました。現在は約 11 万人を超える人が小金井市でくらしています。都心に近いながらも、豊かな自然環境に恵まれた快適都市です。

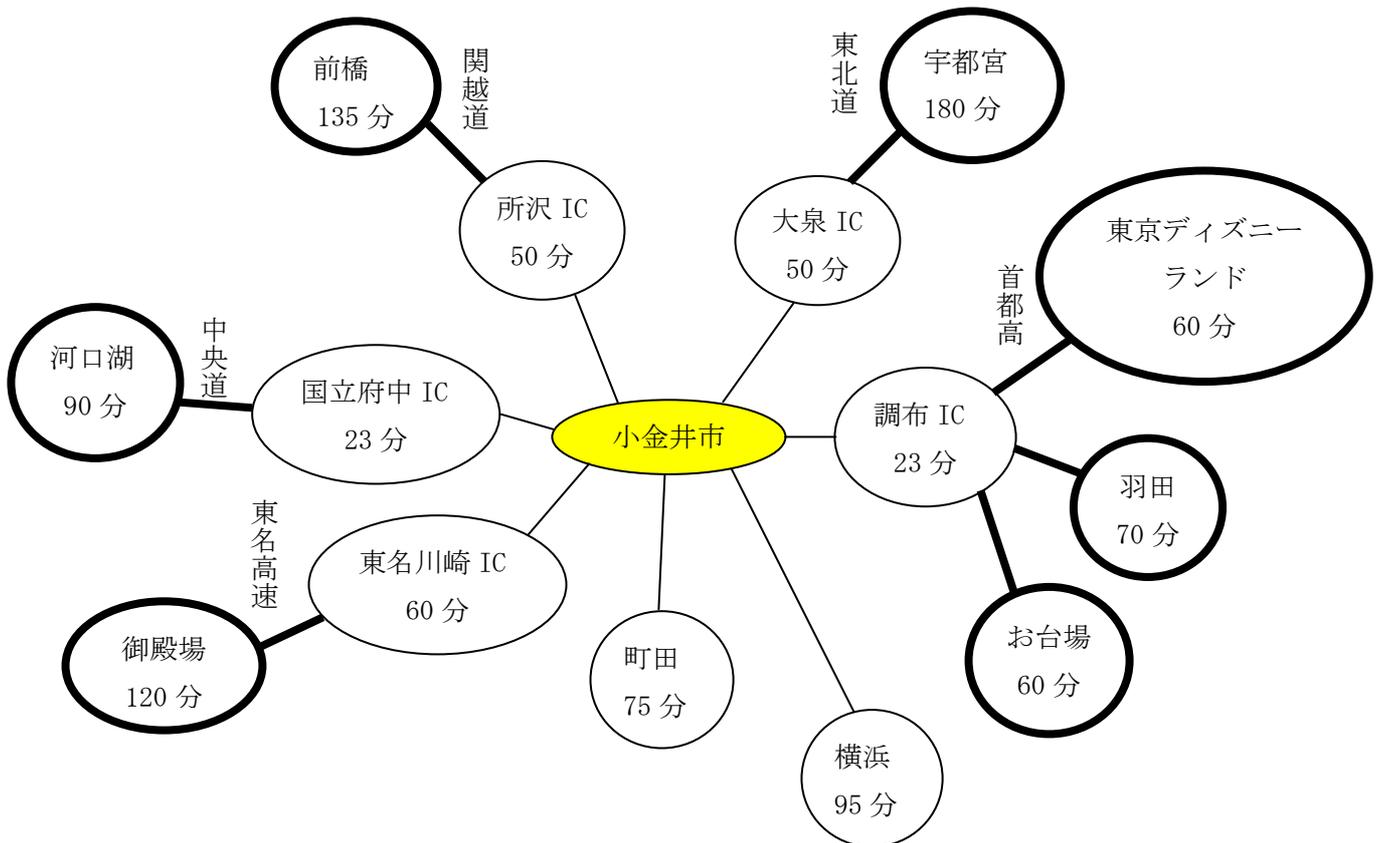
(資料)「市勢要覧 2008」

図表 2 小金井市から主要都市へのアクセス

【電車による主要都市への所要時間】

武蔵小金井駅	→	J R 中央本線	→	東京駅 44 分
	→	J R 中央本線	→	新宿駅 30 分
	→	J R 中央本線・京王井の頭線	→	渋谷駅 35 分
	→	J R 中央本線	→	立川駅 16 分
	→	J R 中央本線	→	八王子駅 26 分
	→	J R 中央本線・西武国分寺線・西武新宿線	→	所沢駅 36 分
	→	J R 中央本線・京王井の頭線・東急東横線	→	横浜駅 75 分

【道路による主要都市等への所要時間】



注) 上記の所要時間はあくまでも目安であり、実際には道路交通状況により異なる。

1-2 人口、土地

【人口に関する小金井市の特性】

人口は一貫して微増傾向にあります。その中でも、年少人口は減少、高齢人口は増加しており、少子高齢化が進んでいます。また、核家族化・単身世帯の増加により、人口の伸びに加えて世帯数が増加しています。なお、平成35年をピークに減少がはじまるものと推測されます。

図表3 人口の予測



20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 (年度)

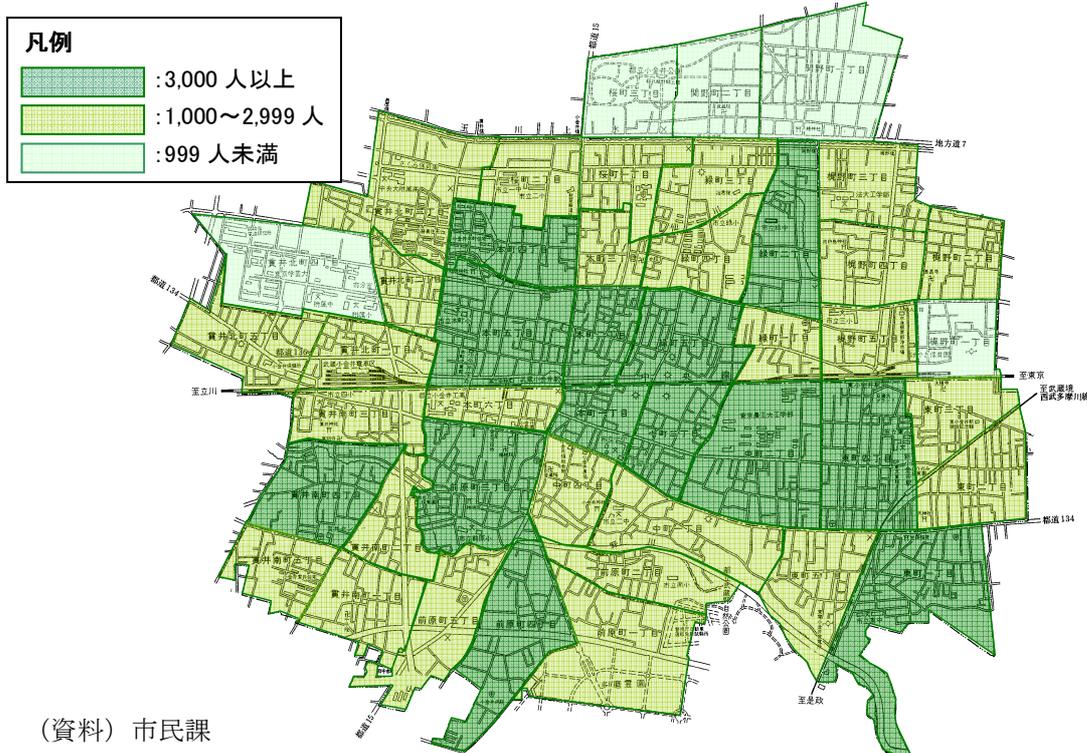
(単位：人)

年度	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
人口	110,459	110,745	111,031	111,317	111,603	111,889	112,032	112,175	112,318	112,461
年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
人口	112,604	112,632	112,660	112,688	112,716	112,744	112,642	112,540	112,437	112,335
年度	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
人口	112,233	112,035	111,837	111,639	111,441	111,244	110,933	110,622	110,312	110,001
年度	50	51	52	53	54	55				
人口	109,691	109,340	108,990	108,640	108,290	107,940				

(資料) 市民課

注) 各年とも10月1日現在(外国人登録人口含まず。)

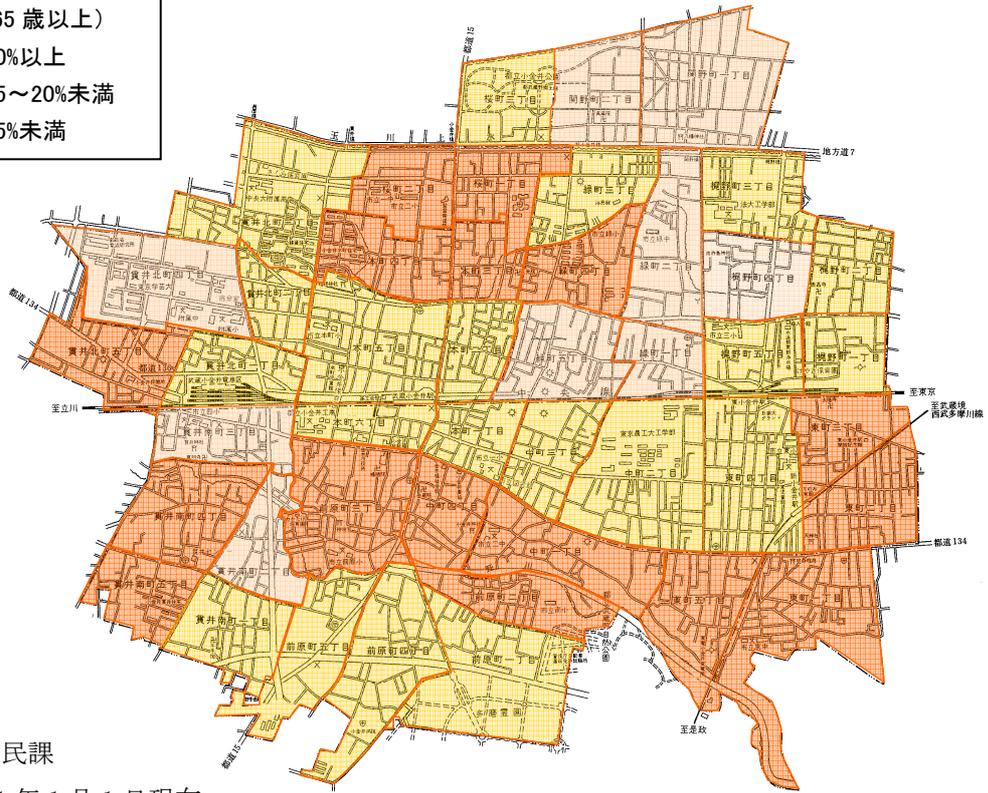
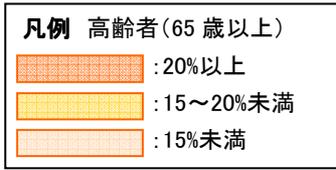
図表4 人口分布



(資料) 市民課

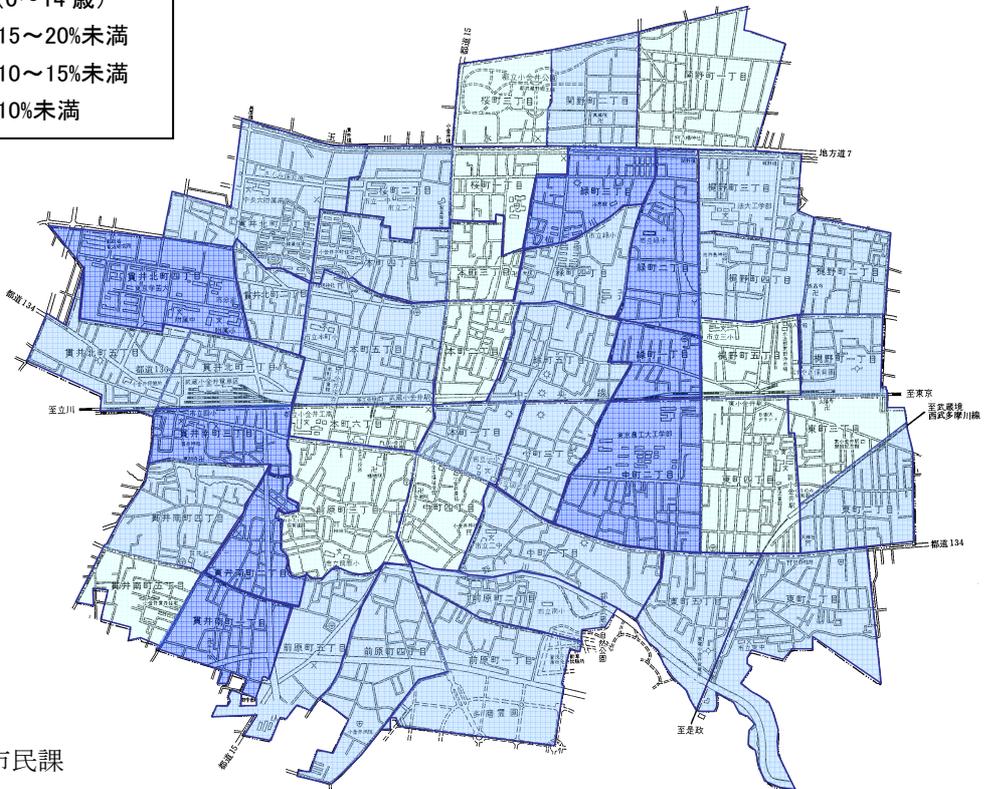
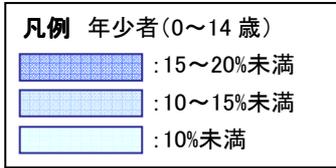
注) 平成21年1月1日現在

図表 5 高齢人口比率



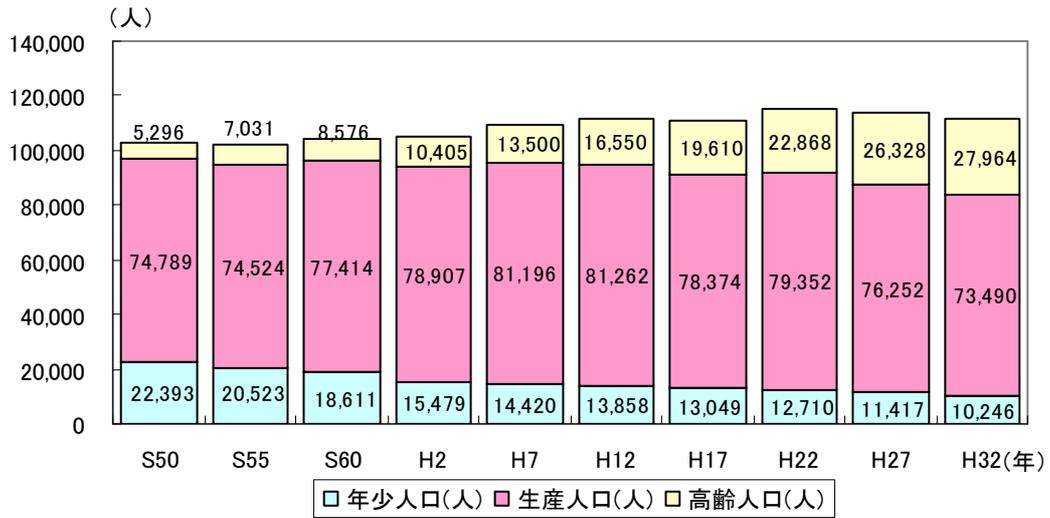
(資料) 市民課
注) 平成 21 年 1 月 1 日現在

図表 6 年少人口比率



(資料) 市民課
注) 平成 21 年 1 月 1 日現在

図表 7 人口属性割合の推移

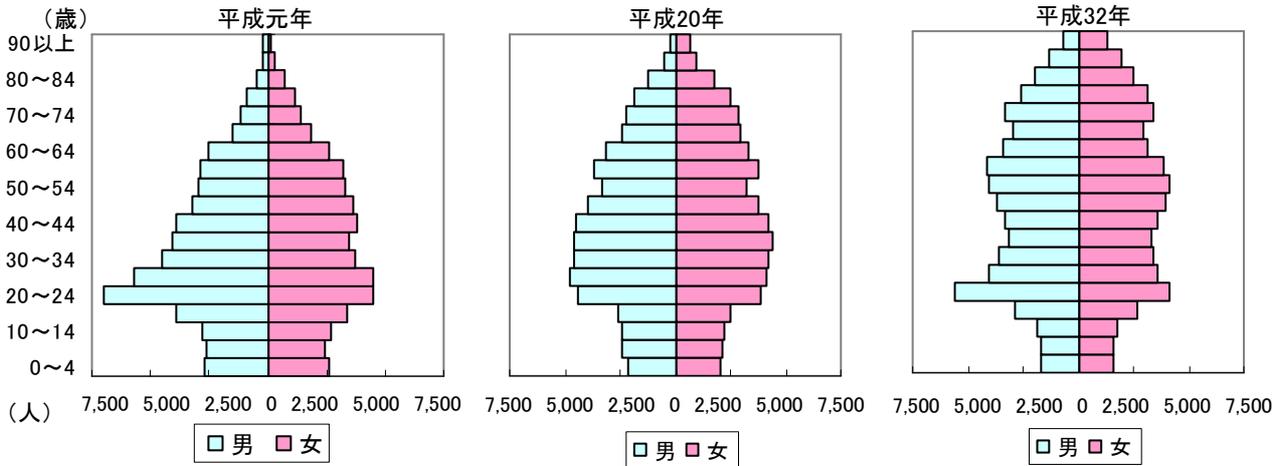


(資料) 「国勢調査」、「東京都男女年齢 (5 歳階級) 別人口の予測」

注 1) 年少人口とは 0～14 歳、生産人口とは 15～64 歳、高齢人口とは 65 歳以上

注 2) 各年とも 10 月 1 日現在

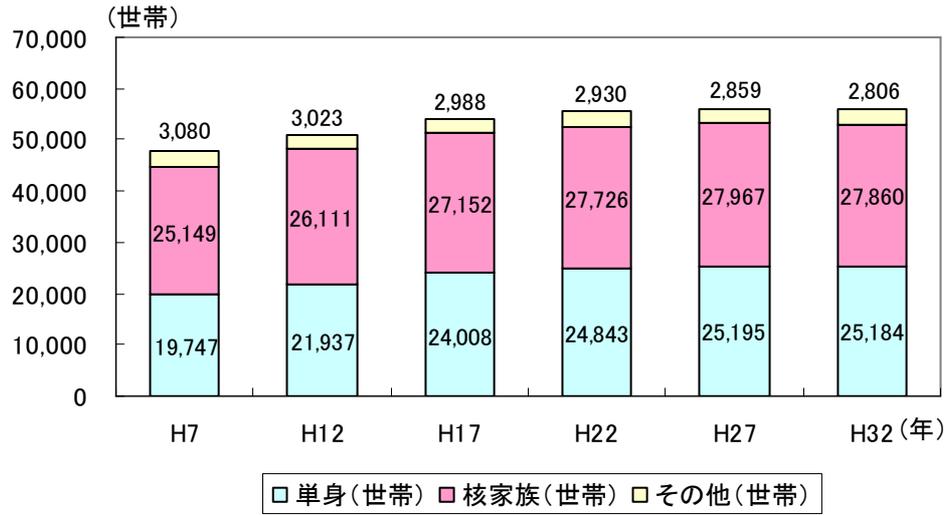
図表 8 人口ピラミッド



(資料) 市民課、「東京都男女年齢 (5 歳階級) 別人口の予測」

注) 平成元年、平成 20 年は各年 4 月 1 日の実績、平成 32 年は 10 月 1 日を基準日にして予測

図表 9 世帯数の推移



(資料)「国勢調査」、「東京都世帯数の予測」(平成 20 年)

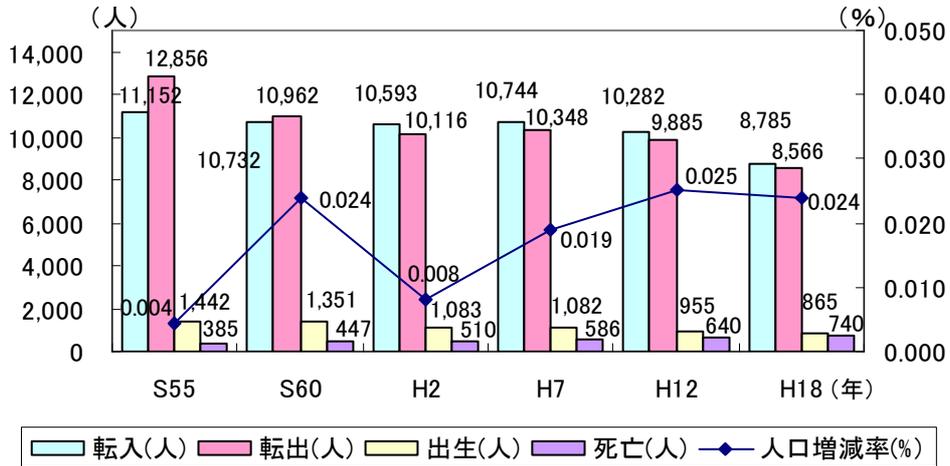
注 1) 平成 17 年までは実績、平成 22 年からは 10 月 1 日を基準日にして予測

注 2) その他は、「三世代世帯」や「非親族世帯」など

【人口流出入に関する小金井市の特性】

転入者が転出者を上回っているものの、大きな人口の増減はなく、人口は毎年微増に留まっています。また、昼間流入人口よりも昼間流出人口のほうが多く、「ベッドタウン」としての傾向がうかがえます。

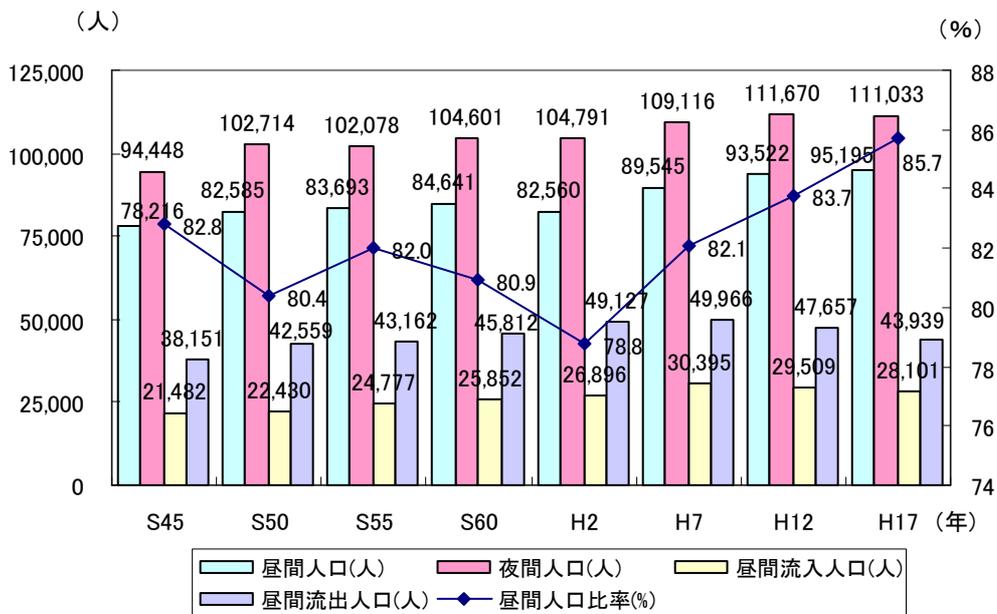
図表 10 人口増減率



(資料) 「事務報告書」

注) 各年とも 10 月 1 日現在

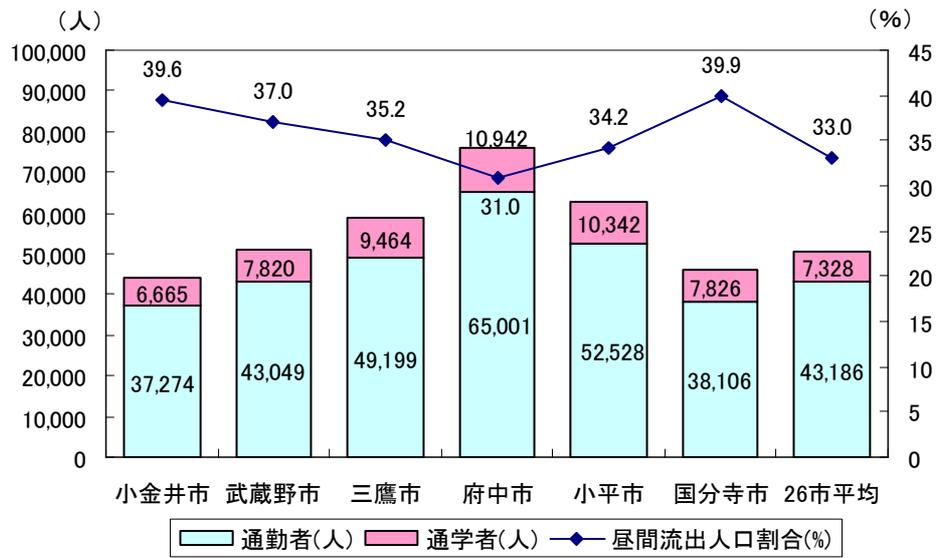
図表 11 昼夜間人口推移



(資料) 「国勢調査」

注) 各年とも 10 月 1 日現在

図表 12 昼間流出人口内訳(近隣市との比較)



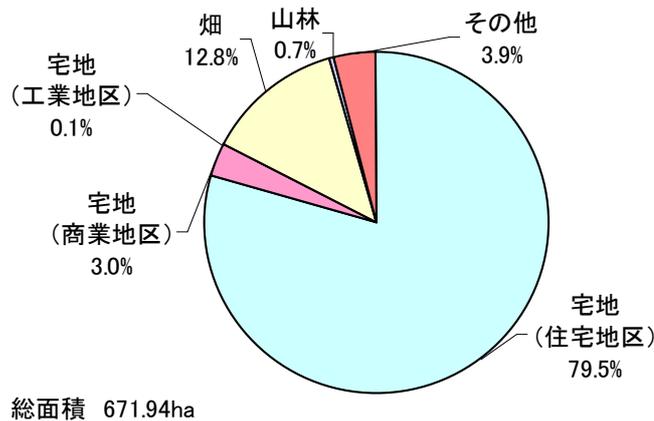
(資料)「東京都の昼間人口」(平成 17 年)

注) 平成 17 年 10 月 1 日現在

【土地に関する小金井市の特性】

小金井市は市域の約8割が宅地（住宅地区）として利用されている住宅都市であり、商業地区・工業地区・農業地区の割合が少なくなっています。また、市内の住宅地区の割合が増加傾向にある一方、畑や山林の割合は減少しています。

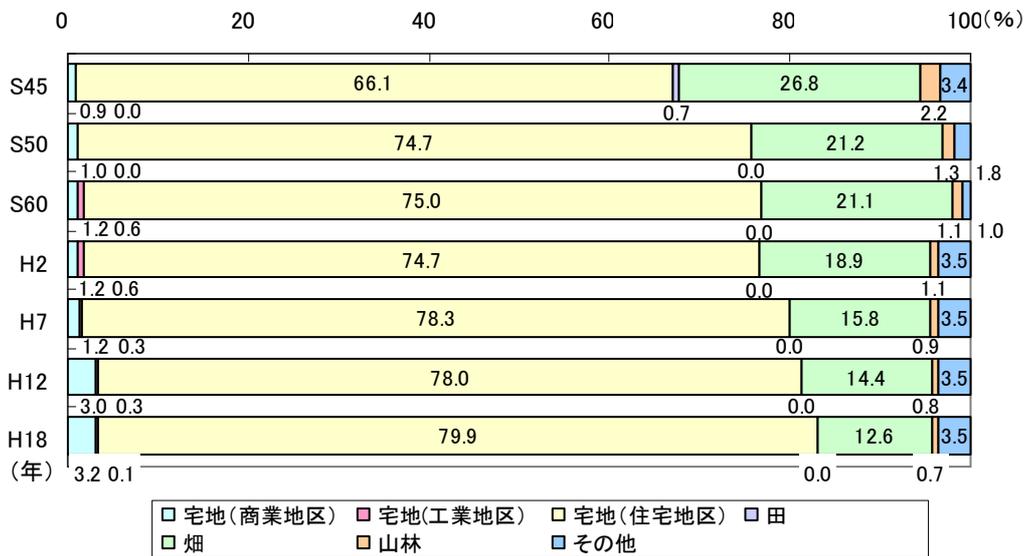
図表 13 地目別土地面積割合



(資料)「多摩地域データブック」(平成19年)

注)平成18年1月1日現在

図表 14 地目別土地面積の推移



(資料)「東京都統計年鑑」

注1)各年とも10月1日現在

注2)昭和50年以降は、市内に「田」は地図としてなくなっている。